

## 【第6回大会報告】



## 第6回大会報告

## ◆総括

## 竹田 仰

大会長（長崎総合科学大学）

台風が頻繁に九州上空を通過するこの時期に、台風にも遭遇せずに好天に恵まれ、傘を差すこともなく無事9月19日～21日の3日間の大会が終了して安堵しているところです。今回の大会は、中国・四国地方を飛ばして初めて九州長崎で開かれたことに地元関係者は大変に榮譽に思っています。そもそも長崎はその昔、鎖国しているときに新しい文化を取り入れる玄関口として、日本の近代化の重要な拠点でした。21世紀最初の記念すべき大会に長崎が選ばれたことは、サイバースペースの発信拠点として、再び長崎が貢献できる可能性があり、我々地元で研究する者にとっては大いなる励みになりました。

今回の基本方針として、できるだけ九州色を出して、九州地区の今後のVRの活動の連帯、情報交換をより強固にしたいということを主眼におきました。これは、先にVR学会の地域拠点研究発表会（福岡市の東和大学にて）や「Journal of Robotics and Mechatronics」誌での九州でのVR研究成果報告（Vol.12, No.1, Feb. 2000）などで、平素よりかなり緊密に連絡を取り合っていたことが大いに役に立ちました。従って実行委員に九州地区の先生方に多数入っていただきました。このことにこの場を借りて感謝申し上げます。

また、九州外からわざわざ長崎まで来られる方々には、何か思い出になるような懇親会をと考え、満足していただける雰囲気と食べ物を出すこと。さらに長崎の名物である「龍踊り」を披露することをかなり早い時期から考え、懇親会の場所の選定に大いに悩みました。幸いに、発表会場の近くにゆったりとスペースのとれる良いホテル

がありましたので、会場から移動が必要ですがそこに決めた次第です。

一方、大会での発表件数は160編となり、過去の大会の中で最多となりました。この中で、作品展示関係が5件、技術展示関係が7件含まれています。しかしながら企業の出展が思ったほど集まらず、最後まであちらこちらにお願いしましたが、長崎という遠隔地にあること、景気がよくないことが重なって11社に留まりました。地元のテレビ局も3～4局取材に訪れ、企業・作品・技術展示を中心に放映され、長崎市民にも、とても良い刺激になりました。

今回の大会のもう一つの特徴は、VR文化フォーラムと同時開催をしたことです。従ってどこに組み込むか調整が難しかったのですが、最終的に初日(19日)の講演終了後に1時間空けてスタートするというので、我々スタッフは慣れない2つの準備に追われ、十分に皆様の期待に添えなかったのではと反省しております。しかしながらハイビジョンと5.1chサウンドを使っただけのデモは、仁科先生の事前の搬入調整に苦労があっただけにすばらしいものがありました（フォーラムの中身については、別途報告があると思いますので、割愛させていただきます）。

中日の特別講演は村上龍氏の講演を予定していましたが、急遽入院という事態で、大ピンチのところを快く会長の原島先生が顔についての大変分かりやすくかつ興味の尽きない名講演をしていただき、参加者の方々には償って余りあるものがありましたことを感謝しております。

最終日は、約100名の方が、2台のバスに乗車いただき長崎ペンギン水族館にテクニカルツアーということで見学いただきました。ペンギンに特化した水族館と7m×3.5mの大型斜めスクリーンでの3次元インタラクティブ型のVRシアターを見ていただきました。

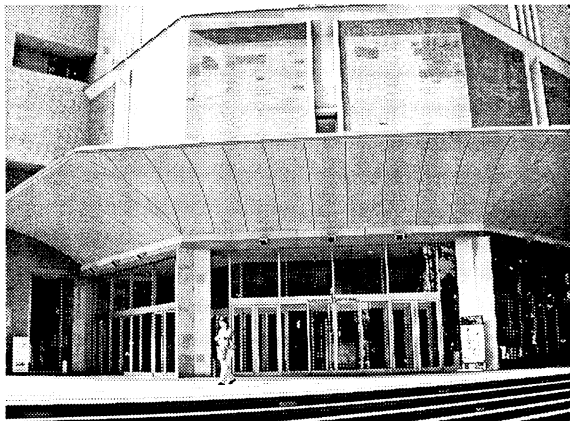


図1 長崎ブリックホールのエントランス



図3 発表の様子 (その1)



図2 受付へのエスカレーター

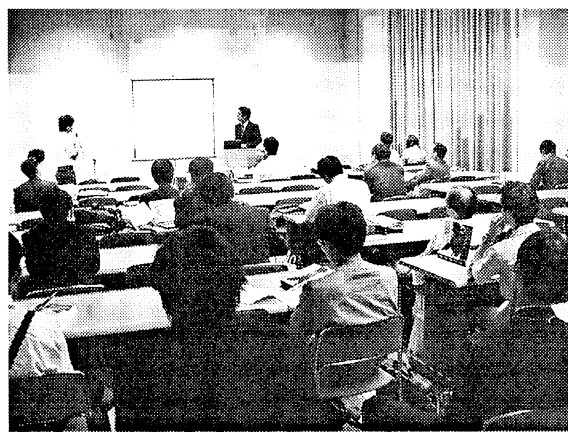


図4 発表の様子 (その2)

以上、おかげさまを持ちまして、無事に終了したことに参加された皆様のご支援ご協力を心より感謝申し上げます。

## ◆幹事/デザイン/HP 担当から 金子照之

幹事 (長崎総合科学大学)

6年前に竹田先生に誘われてVR学会に入会して、会員番号は27番と上位の方ですが、一度も年次大会に参加したことがなく、ほとんど幽霊会員でした。あの当時から竹田先生は「2001年のVR大会は長崎でしょう」と目論んでいました。本当に開催することになり、私は幹事に任命されましたが、Webの立ち上げ、大会ロゴマークやポスターのデザインを主に担当しました。幽霊幹事です。その他大変な仕事は、竹田大会長、裏幹事の北島先生、本多秘書に捌いて頂き、本当にありがとうございます。勿論、参加者の皆様の御蔭で、論文件数160の大盛況となりましたことを深く感謝致します。VR文

化フォーラムとの同時開催、招待講演のドタキャンなど、おそらく前例のない大会も無事に終了して、ひとまず安心していきます。

学会を開催するのは雑多で面倒なこともいろいろあり、約1,300通のメールをやり取りして大変でしたが、凄く貴重な体験になりました。第5回幹事の矢野先生から懇切丁寧な大会運営手順を伝授して頂き、過去の大会の流れを参考にしつつ、長崎独特の雰囲気<sup>じゃおど</sup>を盛り込めたいと思います。特に懇親会での龍踊りは強烈な印象で、私は何度も観ましたが、あんなに間近で観たのは初めてでした。また、後輩と久しぶりに再会できたり、ほとんどメル友状態だった歴代幹事さまと実際に対面できたり、VR研究最前線に触れる以外の「おまけ」がアタリだったので良かったです。修学旅行以来の長崎という方も多かったようですね。長崎での今大会が皆様を刺激して、新しいVRが拓かれていくことを祈念します。私自身もバーチャルな幽霊会員を改め、リアルな会員となり、来年の第7回大会に参加できるよう、がんばります。